コミュニケーション障害学投稿規定（2025年9月1日改定）

1．**本誌への投稿にあたっては，第1著者は学会員であること．また，全著者のうち半数以上は学会員であること**．ただし，編集委員会が特別に認めた場合は，その限りではない．

2．投稿論文は研究報告を主とする**原著論文**，コミュニケーション障害学上の問題についての**総説**（文献に基づく議論または文献展望），**事例研究**，**調査研究**，**短報**とし，他誌に掲載されていないものに限る．

3．研究は倫理的規範を遵守したものであり，研究対象者への倫理的配慮について論文中に記載すること．

4．本文および文献は**A4判用紙に40字×30行**の書式で記載する．写真，図，表はA4判用紙1枚に1点ずつ作成する．写真，図，表を1点400字として，本文・文献とあわせた総文字数を，次項の②として記す．投稿区分ごとのページ数（および目安の文字数）は以下である．

なお，規定の組み上りページ数を超えても，著者が実費を負担すれば掲載されることがある．

(1) **原著論文**：組み上り9ページ（約12,000字）以内．
(2) **総説**：組み上り18ページ（約25,000字）以内．
(3) **事例研究**，**調査研究**：組み上り7ページ（約9,000字）以内．
(4) **短報**：組み上り5ページ（約5,500字）以内．

なお，投稿論文の本文原稿には行番号および下部中央にページ番号を挿入すること．

5．次にかかげるものを，投稿区分に応じて添付する．①～⑤は，それぞれ別紙に記す．①**投稿区分の別**，**著者名**，**所属**，**第1著者の所属所在地**（郵便番号を含む，本誌の体裁にならって和英併記すること），②**標題**（和英併記），**総文字数**，**Key Words**（3～5個，和英併記），③**和文抄録**（200～400字；ただし事例研究，調査研究，短報においては200字以内），④**英文抄録**（100～200語；ただし事例研究，調査研究，短報においては100語以内：再度，タイトル，著者名，所属を最初に記す），⑤**英文抄録の原文（邦文）**（英語を母語とする専門家の校閲を受けるため，主語・目的語・述語あるいは代名詞などの意味がはっきりわかる明解な邦文とする）．

6．本学会ホームページから**誓約書**および**投稿論文チェックリスト**をダウンロードし，内容を確認のうえ添付する．

7．組み上りページ数の超過分の実費は著者負担となる．図表の加工など編集上の特別な経費は著者負担となる．

8．原稿はワープロソフトで横書きとし，専門用語以外は常用漢字・現代かなづかいを用い，句読点（“，。;:”を用いる）は正確に書く．また，括弧は（　）［　］を用い，引用符号は“”（ダブルアポ）を用いること．本文原稿には必ずページ番号をつける．

9．外国語の固有名詞（人名・地名）は原則として原語のまま用いる．ただし，日本語化しているものはカタカナとする．数字は算用数字を用い，度量衡単位はCGS単位で，m，cm，mm，L，dL，mL，kg，g，mgなどとする．

10．本文中の著者自身の氏名や所属先名は，論文の内容理解に支障がない限り，無意味な文字や記号に置き換えて記載すること．

11．**開示すべき利益相反（COI）**がある場合は本文末尾に記載すること．

12．**写真・図・表**は，必ず**標題**（必要に応じて説明も）をつける．

なお，本文原稿紙面右側余白に**挿入箇所を指定する**．写真は刷り上りが白黒となることを基本にして，手札以上の大きさで鮮明であること．

13．文献は本文に用いられたもののみ挙げ，本文の終わりに**アルファベット順**に配列する．本文中の引用箇所には**著者・刊行年次**を括弧にいれて必ず記すこと．**最初の引用**では，著者・編者名は**3名**まで記す．次頁例⑦の場合は，「大伴，林，橋本，ほか，2008」とする．同一文献の**2回目以降の引用**では，**第1著者名**と“**ほか**”あるいは“**et al.**”を「大伴，ほか，2008」のように記す．また，文献の書き方は下記の通りとし，**誌名は和文英文ともに略記せず完全な誌名を記載する**．

(1) 雑誌の場合

著者名．刊行年次（西暦）．論文名．誌名（欧文誌名はイタリック表記とする）．**巻数**，**ページ**．

(2) 図書の場合

著者名．刊行年次(西暦)．書名(欧文書名はイタリック表記とする)．**版表示．出版社（出版社が外国の場合は所在地を含む）**，**引用ページ**．

引用文献の著者名・編者名は，**3名以内の場合は全員書き，4名以上の場合は3名連記の上**，“……，ほか．”あるいは“……，et al.”とする．ただし，欧文文献では2名の場合には，「Guitar, B. and Marchinkoski, L.（2001）」と記入する．また，標題は副題を含めてすべてを記すこと．

(3) Webの場合

著者名，公開年，表題，ウェブサイト名，Retrived from URL，アクセス年月日を記す．

Presented by Medical*Online

14. 著者校正は1回のみとし，著しい訂正は原則として認めない．
15. 筆頭著者には別刷30部を無代進呈する．それ以上の別刷を希望する場合は50部単位で実費作成するので，著者校正の際に申し込むこと．
16. 投稿は原則として日本語によること．ただし，編集委員会が認めた場合は英語によるものを受けつける．
17. **投稿論文の採否は査読の結果により編集委員会が決定する．**
18. 本誌に掲載された論文の著作権は日本コミュニケーション障害学会に帰属する．
19. **原稿と誓約書，投稿論文チェックリストは電子メールで右記学会事務局に送ること．**その際，原稿はPDF化して，電子メールの件名は指定のものにすること．掲載原稿および受理後に提出を依頼するCD-R，USBメモリなどの電子媒体は返却しない．

投稿原稿の送付先
日本コミュニケーション障害学会事務局
Tel. Fax. 042（324）7397
E-mail jacd@tea.ocn.ne.jp

原稿送付の際，原稿はPDF化して，電子メールの件名は以下のようにすること．
【投稿論文】投稿区分：第1著者の姓名
（例）【投稿論文】原著論文：鈴木未来
メール送信後1週間経っても学会事務所から受領の連絡がない場合は，問い合わせてください．

文献の書き方（例） ＊欧文誌名，欧文書名はイタリック表記．

「雑誌」

例①（雑誌 単著）
大井 学．(2004)．高機能広汎性発達障害をもつ人のコミュニケーション支援．障害者問題研究．32, 22-30.

例②（雑誌 2名）
小渕千絵，廣田栄子．(2006)．聴覚障害児の韻律識別力と聴覚活用に関する検討．*Audiology Japan.* 49, 276-283.

例③（雑誌 4名以上）
入江美緒，進藤美津子，長塚紀子，ほか．(2004)．失語症におけるピッチアクセント異同弁別能力．コミュニケーション障害学．21, 165-171.

例④（雑誌 欧文 単著）
Pea, R. D. (1979). Can information theory explain early word choice. *Journal of Child Language.* 6, 397-410.

例⑤（雑誌 欧文 2名）
Guitar, B. and Marchinkoski, L. (2001). Influence of mother's slower speech on their children's speech rate. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research.* 44, 853-861.

例⑥（雑誌 欧文 4名以上）
Schopler, E., Reichler, R. J., Devellis, R. F., et al. (1980). Toward objective classification of childhood autism: childhood autism rating scale (CARS). *Journal of Autism and Developmental Disorders.* 10, 91-103.

「図書」

例⑦（書籍 4名以上）
大伴 潔，林 安紀子，橋本創一，ほか．(2008)．LCスケール：言語・コミュニケーション発達スケール．学苑社．

例⑧（書籍 編集者あり）
山澤秀子．(2005)．“ロールプレイ活動”．失語症者の実用コミュニケーション臨床ガイド．竹内愛子（編）．協同医書出版社，p.88-95.

例⑨（書籍 欧文 単著）
Crystal, D. (1982). *Profiling linguistic disability.* London, Edward Arnold, p.28-41.

例⑩（書籍 欧文 編集者あり）
Ingram, D. (1981). “The transition from early symbols to syntax”. *Early language: acquisition and intervention.* Schiefelbusch, R. L. and Bricker, D. D. (eds.). Baltimore, University Park Press, p.282-284.

例⑪（書籍 欧文 翻訳あり）
Hebb, D. O. (1972). *Textbook of psychology.* 3rd ed. Philadelphia, Saunders（白井 常監訳．(1975)．行動学入門．第3版．紀伊國屋書店，p.128）．

「Web」

例⑫
公益社団法人日本心理学会 (2017)．論文を投稿される方 公益社団法人日本心理学会 Retrieved from https://psych.or.jp/publication/paper/（2018年12月5日）

Presented by Medical*Online